

資料 4-3
令和3年度第3回
事業評価委員会

東京都市計画道路環状第3号線 (新宿区市谷薬王寺町～同区市谷柳町)

令和3年10月8日(金)
建設局道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	5
3. 事業の投資効果	6
4. 事業の進捗状況と見込み等	10
5. コスト縮減等	12
6. 対応方針(原案)	13

1. 事業概要(1)

[全体概要]

路線名：環状第3号線

区 間：中央区勝どき二丁目
～江東区辰巳二丁目

延 長：約27km

[今回評価区間]

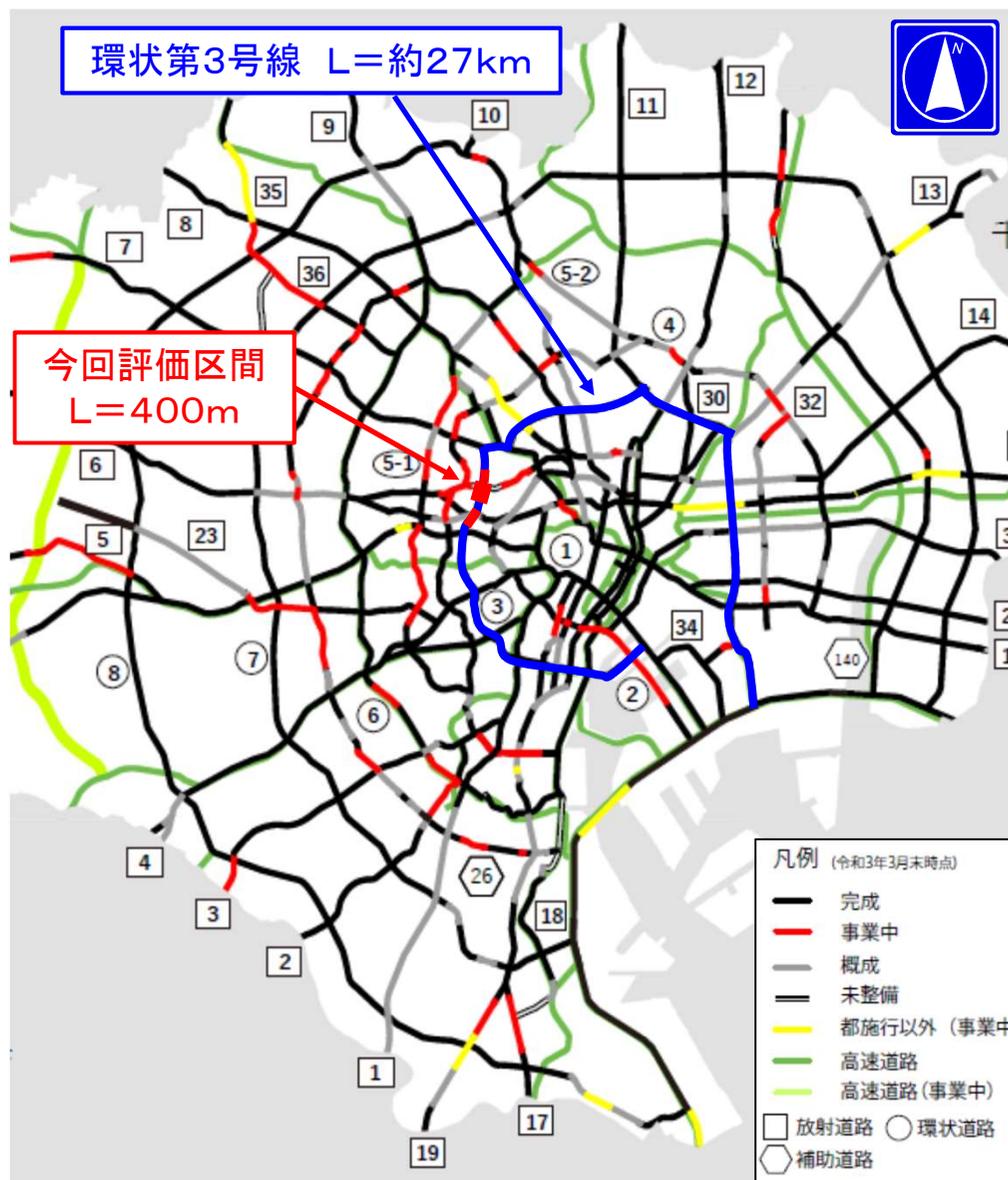
区 間：新宿区市谷薬王寺町
～同区市谷柳町

延 長：400m

幅 員：27m

事業費：約150億円

年月日	計画等
昭和21年3月26日	都市計画決定
平成15年1月10日	事業認可取得
令和4年3月31日	事業認可期間



1. 事業概要(2)

今回評価区間周辺の概要



同一路線の沿道状況

①



早稲田通りとの
交差点より北側

②



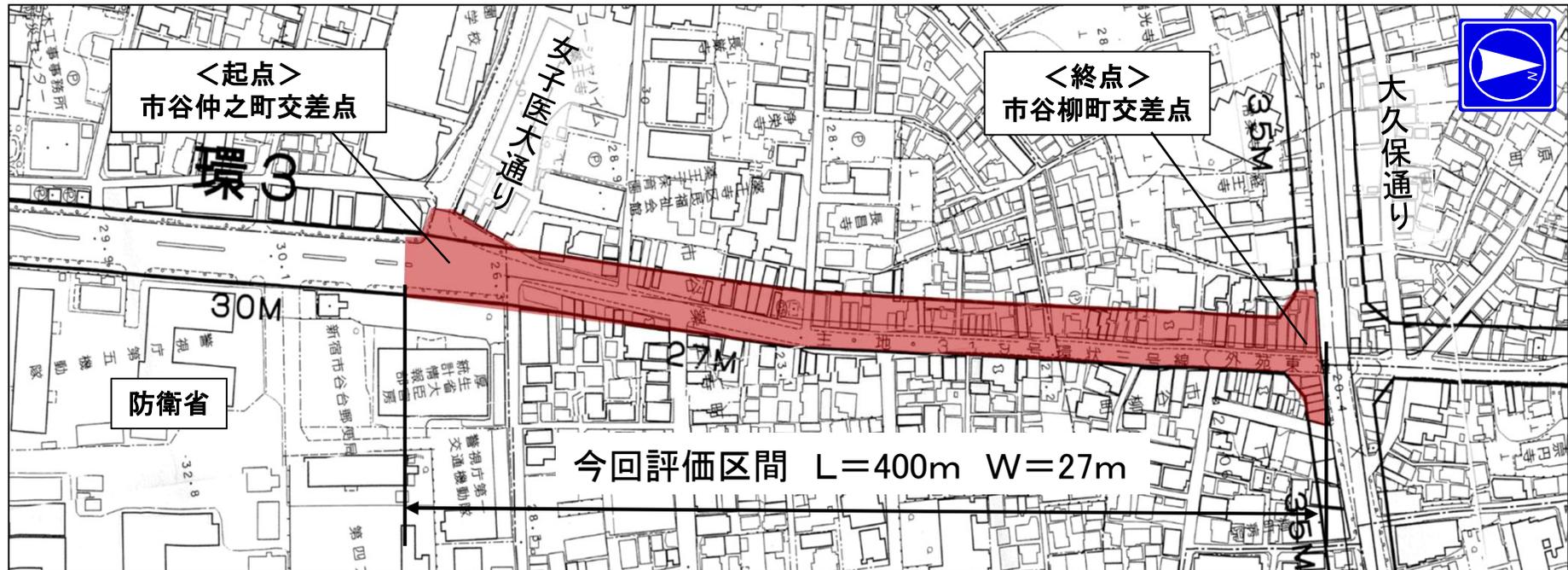
靖国通りとの
交差点より北側

事業の効果

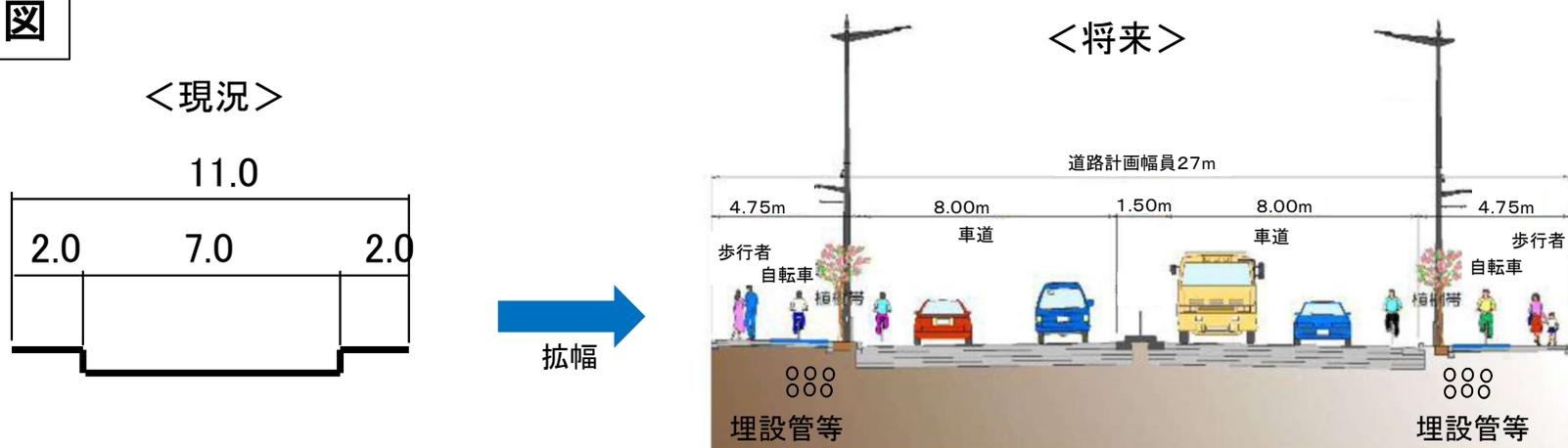
- 広域的な幹線道路ネットワークが形成され、**周辺地域の交通渋滞が緩和**
- 災害時には、**延焼遮断帯や避難路等としての機能**を発揮
- 電柱のない、**緑豊かな歩道を整備**することにより、**快適で安全な歩行空間、良好な都市景観が創出**

1. 事業概要(3)

平面図



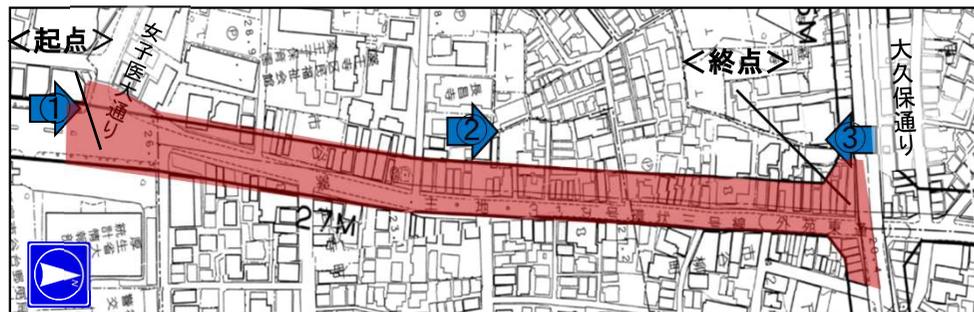
断面図



1. 事業概要(4)

前回評価時からの主な進捗

- 平成29年3月～
順次、車線を東側から西側へ切り替え
- 令和3年3月
市谷仲之町交差点を改良



前回
評価時



現況



起点側(市谷仲之町交差点)

中間部

終点側(市谷柳町交差点)

2. 社会経済情勢等の変化

周辺交通の状況

- 本路線周辺の現況交通量（H27年度）は、H22年度と比較して横ばい

補71(大久保通り)
交通センサス観測地点
平成22年度：9,496(台/12h)
平成27年度：9,427(台/12h)

関連する他事業等の状況

番号	地区	着手年度	用地	工事
①	環状第3号線 (弁天町)	H20	98%	実施中
②	環状第3号線 (曙橋)	H11	99%	実施中
③	放射第25号線 (若松町)	H22	76%	未実施
④	放射第25号線 (筑土八幡)	H25	28%	未実施



3. 事業の投資効果(1)

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益	369.8億円
走行時間短縮便益	352.9億円
走行経費減少便益	16.2億円
交通事故減少便益	0.7億円

【費用(C)の算定】

現在価値化総費用額	248.1億円
工事費	121.8億円
用地費	119.4億円
維持管理費	6.9億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$\underline{B/C = 1.5} \quad (\text{前回 } 1.7)$$

3. 事業の投資効果(2)

定性的効果

	事項	該当
交通	交通渋滞の解消	○
	物資流動円滑化への寄与	○
	バスの定時性	○
	迂回交通の減少	○
景観	都市景観の向上	○
防災	緊急車両の走行	◎
	延焼遮断	◎
	災害時の避難路の確保	○
	消防活動困難地域の解消	

	事項	該当
くらし	土地利用の転換・高度化	◎
	交通不便地域の解消	
	商業・産業の活性化	○
	公共施設へのアクセス向上	○
安全	交通事故の減少	○
	バリアフリー化	○
	自転車や歩行者のための空間確保	○
	その他	

※該当欄の◎は次頁以降に概要あり

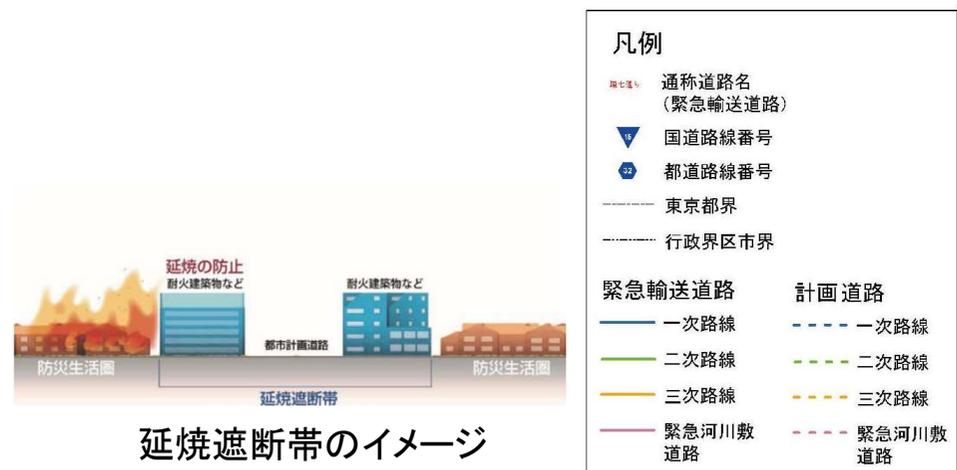
3. 事業の投資効果(3)

＜防災＞延焼遮断 緊急車両の走行

- 延焼遮断帯の形成による延焼遮断機能の発揮。
- 無電柱化による都市防災機能の強化。
- 災害時の緊急輸送の円滑化など、緊急輸送道路としての機能の発揮。



終点側(市谷柳町交差点)



3. 事業の投資効果(4)

<くらし>土地利用の転換・高度化

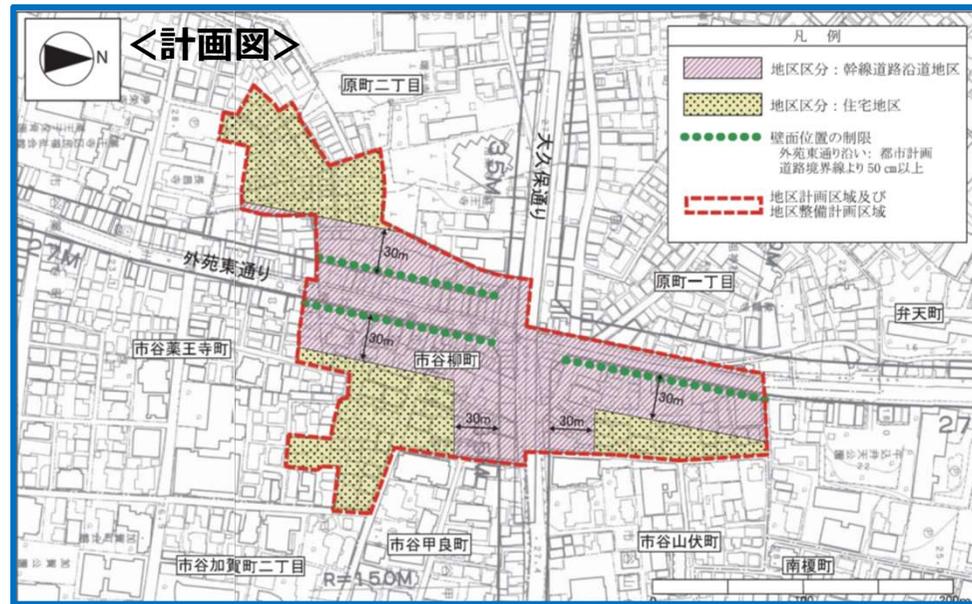
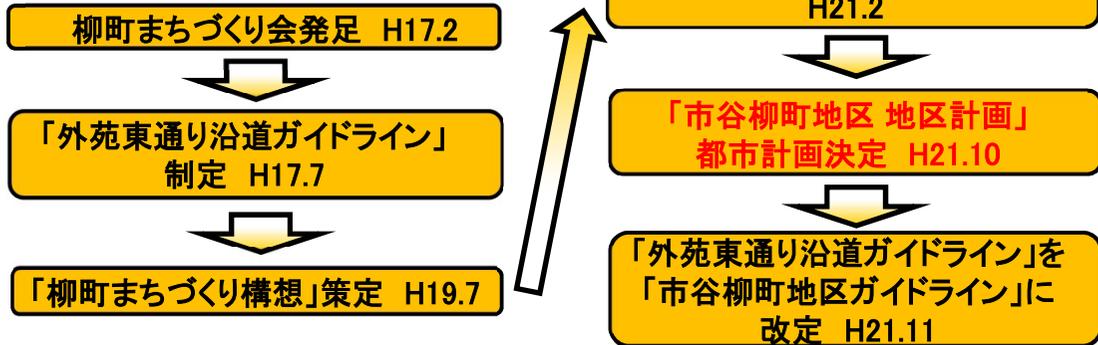
- 新宿区が進めている沿道地域のまちづくりに寄与する。

地域のまちづくり方針

環状第3号線拡幅事業を転機に、市谷柳町の歴史を踏まえ、活気ある快適で安全なまちづくりを進める。



市谷柳町地区 地区計画の経緯



4. 事業の進捗状況と見込み等(1)

事業費の執行状況

(R2年度末時点カッコ内は前回評価時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費(百万円)	13,251(13,251)	2,451(1,695)	15,702(14,946)
執行済額(百万円)	13,240(13,216)	1,819(1,139)	15,059(14,355)
執行率(%)	99.9(99.7)	74.2(67.2)	95.9(96.0)

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
6,734m ²	6,673m ²	99.1%

4. 事業の進捗状況と見込み等(2)

一定期間を要した背景等

- 権利者多数の区分所有マンションが多いことから、権利者との交渉に時間を要した。また、接道する区道との高低差が大きく、対応方針と高低差補償の折衝に時間を要した。
- 多くの地権者から事業への協力を円滑に得られたが、一部地権者から合意を得るにあたり時間を要している。

残事業の取り組み及び進捗の見通し等

- 用地は99%取得済みであり、未取得用地の早期更地化を目指し、折衝を進める。
- 現在、車道の4車線化に向けた街築工事等を行っており、早期完成を目指していく。

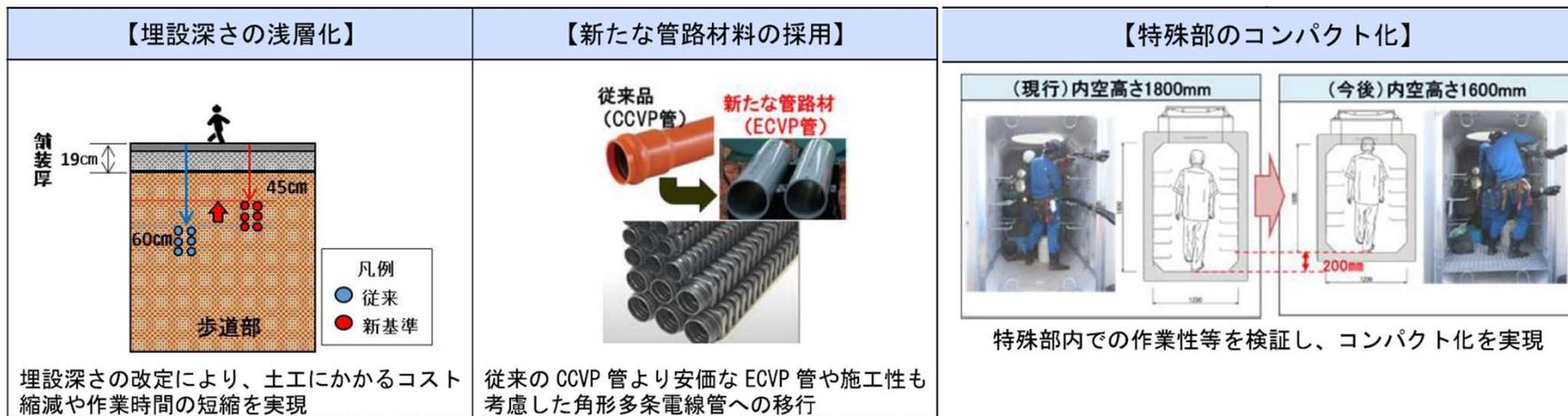


街築工事実施箇所

5. コスト縮減等

コスト縮減や新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- 一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって新工法、事業手法、施設規模等の見直す可能性は極めて少ない。
- 無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画（R3.6改定）を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。



その他のコスト縮減の取組

- 施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

6. 対応方針（原案）

（事業の必要性等に関する視点）

- 広域的な幹線道路ネットワークが形成され、周辺地域の交通渋滞が緩和される。
- 災害時には、延焼遮断帯や避難路としての機能を発揮される。
- 電柱のない、緑豊かな歩道を整備することにより、快適で安全な歩行空間、良好な都市景観が創出。

（事業の進捗の見込みの視点）

- 用地は99%取得済であり、残る未取得用地についても早期更地化を目指し、折衝を進める。
- 現在、車道の4車線化に向けた街築工事を行っており、早期完成を目指していく。



対応方針（原案） 継続

- 環状第3号線は、周辺地域の交通渋滞緩和、延焼遮断帯や避難路としての機能、快適で安全な歩行空間、良好な都市景観の創出の観点から、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。
- 中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。